

水資源・環境学会 2025 年度研究大会
報告要旨

【招待報告】

② 過疎地区における小規模水供給設備の必要性と可能性

ー能登半島地震後の水道未復旧地区の実情から考えるー

報告者:保屋野初子(NPO 法人地域水道支援センター理事長、元星槎大学教授)

能登半島地震後とくに上水道の復旧に長期を要し、住民生活の回復に大きな障害となった教訓から、国は今後の復興・地震対策において「分散型」「代替性・多重性」の選択肢を明示した。一方、奥能登豪雨災害での被害も重なった珠洲市と輪島市には現在も断水が続く地区が残る。これら「復旧困難地区」に指定された過疎地区では、大多数の住民が避難先から戻ることができないでいる。このことは、過疎地での水供給インフラ被害は地域の存続に致命的な打撃となりうることを示している。本報告では、地域にある水源を利用し住民自身が運用可能な技術による小規模施設整備の実績をもつ NPO としての問題意識から、珠洲市の「復旧困難地区」の一つ、真浦町の水事情を中心に行った現地調査の結果を報告し、これから過疎地区で必要となる水供給のあり方を考える。「分散型」「代替性・多重性」の確保は被災地に限定されない、日本の上水道の課題であることを指摘したい。

【講師プロフィール】

保屋野初子(ほやのはつこ) NPO 法人地域水道支援センター理事長。元星槎大学教授(環境学博士)。水道やダムなどをテーマとするジャーナリストとして活動したのち、水資源開発問題、河川管理政策、住民にとっての流域、北タイの灌漑用水管理などの研究に携わる。星槎大学では環境分野を担当しフィールドスタディにも力を入れた。2006 年に技術者、研究者、市民などと設立した NPO 法人では理事を務める。同 NPO では、生物ろ過法の一つで明治以来の近代水道に採用されてきた緩速ろ過浄水法の研修や実証実験、そのろ過法を用いた小規模飲用水給水施設を岡山県津山市の 5 カ所の中山間部に設置し、住民により運用されている。